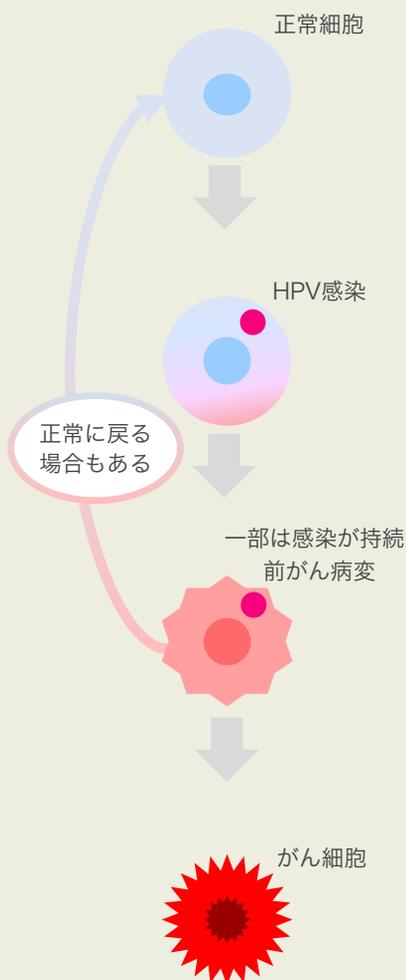


子宮頸部細胞診結果の見方 (ベセスダ分類)



陰性 (NILM)

- ASC-US (軽度扁平上皮内病変疑い)
軽い変化がありますが、HPV感染による変化かどうか断定できません
- ASC-H (高度扁平上皮内病変疑い)
強い変化が疑われますが、今回の細胞診検査だけでは断定できません
- LSIL (軽度異形成)
軽い変化・異型性があります
- HSIL (中等度異形成)
中等度の変化・異型性があります
- HSIL (高度異形成)
高度の変化・異型性があり、極初期の癌に近い状態です
- HSIL (上皮内癌)
上皮表層に限局する極初期の癌が疑われます
- HSIL (微小浸潤扁平上皮癌)
上皮表層から少し浸潤した初期の癌が疑われます
- SCC (扁平上皮癌)
扁平上皮癌 (皮膚癌に似たタイプの癌) が疑われます
- AGC (腺異型または腺癌疑い)
分泌腺細胞に変化・異型性がみられます
- AIS (上皮内腺癌)
表層に限局する極初期の腺細胞の癌が疑われます
- 腺癌 (adenoca.)
分泌腺細胞の癌が疑われます
- その他の悪性腫瘍
扁平上皮癌・腺癌以外の癌や肉腫が疑われます

上記の分類は、あくまでも細胞診検査から最も推定される状態・変化・病変を表しており、これより進んでいる場合もあれば、さほど進んだ変化ではない場合もあります。細胞診検査だけでは正しい判断・診断するのは難しいので、子宮腔部を拡大鏡(コルポスコープ)で観察したり、場合によっては一部の組織を採取(生検)して顕微鏡で詳しく検査する必要があります。

細胞の変化を異型性(atypism)と言います。この異型細胞からなる前癌状態に近い扁平上皮の変化を異形成(dysplasia)と呼び、通常は軽度・中等度・高度の3段階に分けますが、軽度→中等度→高度というように段階的に進むとは限らず、陰性・正常に戻ることもあります。進行する場合でも通常は1~3年くらいの期間で変化します。